

地域を守る！	▶ 地域との連携	地域の防災の拠点となっている	この取組のポイント
045	地域の福祉拠点としての津波避難棟		✓ 広く地域に開放された障がい者の訓練棟を兼ねる避難所
取組主体		従業員数	想定災害
社会福祉法人悠林舎 シーズ今津		15 名	津波
			実施地域
			徳島県

障がい者支援施設であるシーズ今津では、平成 30 年に津波発生時の一時避難場所として活用できる作業訓練棟を竣工した。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

施設利用者だけでなく地域住民も利用できる津波避難場所を設置

- 徳島県の障がい者の就労・生活支援を行うシーズ今津の敷地は沿岸部から 800m の場所にある。津波避難地域に指定され、南海トラフ地震発生時には約 20 分で津波が到達すると想定されている。（最大波高:1～3m）
- 同施設では、避難訓練を継続的に行っているが、重度自閉症の方も利用するなど、近隣避難所へのスムーズな全員避難が困難な状況となっている。また、同施設が位置する地域には 30 名以上の災害時要配慮者がいるとされている。
- 同施設は、この施設利用者、職員、地域住民が避難場所として利用できる作業訓練棟を平成 30 年に竣工した。建設にあたり、地域住民の意向調査を実施し、800 名以上の賛同を得るなど、地域の理解があった。
- この作業訓練棟は、地震発生時には自動でキーボックスが解除され、施設営業時間外・職員不在の場合であっても 24 時間避難できる仕組みを有する。また、福祉的弱者に配慮し、車いすでも利用できるトイレを設置している。



竣工した津波避難施設

2 取組の平時における利活用の状況

- 同作業棟は平時には施設利用者のソーシャルスキルトレーニング、ジョブスキルトレーニング等に用いられている。また、施設休業日及び営業時間外には地域交流スペースとして地域住民に開放している。
- 地域住民に同作業棟を認知してもらうため、小学校を巻き込んだ防災教室を開催している。



防災教室の様子

3 現状の課題・今後の展開等

- 同施設は、公共機関等と連携し、同作業棟を周知するなどの取組が必要であると考えている。

担当者の声



福祉施設として地域に貢献していきたい

- 当法人は平成 24 年に市と災害時に同施設を福祉避難所とする協定を締結しており、地域の福祉拠点としての役割を今後も果たしていきたいと思っています。この取組に対する大きな期待を市長からいただいています。
- 防災教室実施等の地域交流活動を積極的に行い、地域福祉の向上と地元のさらなる発展に貢献したいと考えています。

問合せ先

社会福祉法人悠林舎 シーズ今津 法人番号:6480005004257
TEL 0884-21-2250 FAX 0884-21-2260 E-Mail —